

News Release

BASF ジャパン、散布作業の省力化を実現する新規水稲除草剤を上市

2015年2月2日

- 水稲用除草剤「かねつぐ-ラジカルジャンボ」を2015年2月6日に発売予定
- BASF 独自の技術により、長期間の除草効果と、散布作業の省力化を実現

BASF ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表:ヨルグ-クリスチャン シュテック)は、日本の水稲農家を対象に、より効果的かつ効率的な雑草防除を実現する新しい水稲用除草剤「かねつぐ-ラジカルジャンボ」を2015年2月6日に上市します。

水稲用除草剤「かねつぐ-ラジカルジャンボ」は、シクロスルファムロンとプレチラクロールを有効成分として含有し、多年生雑草や一部の SU(スルホニルウレア系除草剤) 抵抗性雑草を含む幅広い雑草に長期間、除草効果を発揮します。また、BASF 独自開発の「ラジカル製剤」により、水溶性フィルムに包まれた本剤を少量(10 アールあたり 30g のパックを 10 個)投入するだけで、省力除草が可能になり、水稲栽培における散布作業をより効率化させることができます。水稲用除草剤「かねつぐ-ラジカルジャンボ」の特長は以下の通りです。

- 多年生雑草を含む幅広い草種に対して優れた効果を示す。
- ラジカル製剤により、散布時間の短縮と拡散不良による効果不足、薬害の心配を軽減。
- 2つの有効成分により、30日程度の残効性を発揮する。

BASFジャパンの化学品・農薬統括本部 農薬事業部 執行役員 レアンドロ・マルティンスは次のように述べています。「水田の規模や地域の特性により、日本の水稲農家の皆様のニーズは多岐にわたります。今回発売する“かねつぐ-ラジカルジャンボ”は、水稲栽培における散布作業の省力化を実現するとともに、小規模な水田でも使用が可能になります。水稲用除草剤“かねつぐ-ラジカルジャンボ”の発売により、BASFジャパンの除草剤の製品群が充実するとともに、幅広く高機能製品を提供することで、日本の水稲農家の皆様に貢献できると確信しています。」BASFジャパンでは、その他にバサグランや半蔵などの水稲用除草剤製品群を有しており、本製品は、BASFの水稲用農薬のポートフォリオをより一層充実させます。

■日本の BASF について

BASF は日本では 1888 年に事業を開始いたしました。事業活動は、化学品、高性能製品、機能性材料、農業関連製品の 4 分野です。主要生産拠点は神奈川県茅ヶ崎市（コンクリート混和剤、建設資材）、茨城県古河市（パーソナルケア製品原料）、茨城県北茨城市（プラスチック添加剤）、横浜市戸塚区（コーティングス）、三重県四日市市（熱可塑性ポリウレタン、ポリマーディスパージョン）です。また、研究開発においては、日本から革新的な製品をグローバル市場に発信することを目指しています。2012 年には「横浜イノベーションセンター」（エンジニアリングプラスチック）を、2013 年には既存の尼崎研究開発センターを拡張し、バッテリー材料に特化した研究施設「尼崎研究開発センターバッテリー材料研究所」を新設しました。2013 年の BASF の日本での売上は 1,959 億円（約 15.1 億ユーロ）、従業員数は 1,301 人です。

■BASF について

BASF（ビーエーエスエフ）は 2015 年、創立 150 周年を迎え、これまで以上に化学でいい関係をつくっていきます。製品ラインは、化学品、プラスチック、高性能製品、農業関連製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASF は、世界をリードする化学会社として、経済的な成功、社会的責任、そして環境保護を同時に実現しています。また、BASF は科学とイノベーションを通して現代社会や将来のニーズを提示しながら、ほぼすべての産業のお客様を支援しています。BASF の製品とソリューションは、資源の確保に貢献し、栄養価の高い食品を提供するとともに、生活の質の向上に寄与しています。BASF は「私たちは持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくります」を企業目標に掲げ、これらの活動を実施しています。2013 年の売上は約 740 億ユーロで、従業員数は約 11 万 2000 人です。BASF の詳しい情報は、www.basf.com（英語）、newsroom.basf.com（英語）、www.japan.basf.com（日本語）をご覧ください。